

文民統制はどこに行った！

日本は、「安倍・福田の政権投げだし」、今の麻生首相の「迷走政治」とまるで「舵取りの無い船」いったいどこへたどり着くのか？波にただよい、テロとの戦いという大波に飲み込まれついには転覆することになるのか？

そのような時代に自衛隊の制服組トップの立場にあった田母神前空幕長の言動には戦慄を覚えます。何百万人にも及ぶ人々の命を奪ったアジア諸国に対する侵略戦争を正当化し、輝かしい歴史であるというのです。この論文が事実誤認だらけで論理性も無く、偏狭なナショナリズムにもとづくものであることは、朝日新聞の検証記事にもあるとおりです（08.11.11 朝刊の検証記事）。

問題は、自衛隊トップの立場にしながら、政府の見解に反して、日本の植民地支配と侵略の誤りを全く認めない主張をし、その間違いを政府から、あるいは国会で指摘されてもなお認めない点です。自衛官にとって最も基本的な義務は、文民統制に服することです。自衛隊のトップのが、政府の統制に服すべき義務を理解せず、現に統制に服していないのです。戦前の軍部のように勝手に自衛隊を動かしかねません。

このような人が自衛隊にいてトップの地位まで上り詰め、最後まで大臣に従わない、それが今の日本です。私たちは、この事件から、青空は曇り、暗雲立ちこめる時代がそこまで来ていることを知りました。力を振り絞って闇を払う風を起こさなければなりません。

9条こそ民主主義の神髄

バラク・オバマ氏が次期アメリカ合衆国大統領に決まりました。一国平和主義から国際協調へ、立場の違う人の意見にも耳を傾け話し合う、という姿勢を好ましいものと感じ、歓迎したい気持ちです。でも、イラクからの米軍の撤退を言いながらアフガニスタンへの軍の増派を公約している点に不安を感じます。私たちは、過去幾多の戦争を経て、力では何も解決しないこと、力による解決は、問題の先送り、将来に紛争の種を残すだけ、ということを知りました。アフガニスタン問題を力で解決するというのでは、また同じ過ちを繰り返すことになります。

オバマさんは、勝利演説で世界の人々に、「私たちの物語はそれぞれ異なります。けれども私たちはみな、一つの運命を共有しているのです。」と呼びかけ「平和と安全を求める人たちにお伝えます。私たちはみなさんを応援します。・・・この国の力とは、もてる武器の威力からくるものでもなく、もてる富の巨大さからくるものでもない。この国の力とは、民主主義、自由、機会、そして不屈の希望という私たちの理想とその理想が持っている力を源にしているのだ」と言っています。

この言葉から私は、日本国憲法の前文の理想、9条実現への道をアメリカとともに歩み始めるその一歩を感じます。現実はそんなに甘くないかもしれませんが、オバマさんがこの理想・希望の灯を掲げ続けられるよう、私たちは日本で、日本政府を力による国際紛争解決や力による国際貢献（？）への誘惑から遠ざけるよう力を尽くさなければなりません。

そして、オバマさんにも「力では何も解決しない！」「力で実現した＜正義＞は、もはや＜正義＞ではない！ 弱者にとっては＜不正義＞だ！」「力の行使は、両者を引き分けテーブルにつかせるためにだけ許される。」そんなメッセージを送りつづけたいと思います。

以上